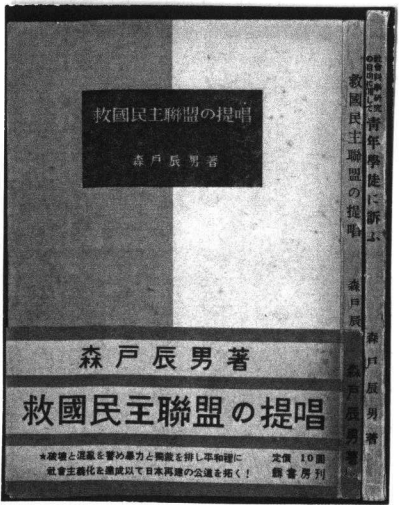


森戸辰男 経済学者、政治家。明治二十一年十一月二十三日廣島縣生れ、昭和五十九年五月二十八日歿（八八一—九六四）。大正二年東京帝國大學法科大学経済学科卒。五年同大助教授も、八年論文「クロポトキンの社會思想の研究」が問題となり辭職（森戸事件）、大原社會問題研究所に入る。戦後社會黨の結成に參加、衆議院議員、文相と務めた。また中央教育審議會會長として中教審大學構想を推進、戦前の言動に背反すると批判せられた。廣島大學學長、日本育英會會長も歴任。昭和四十六年文化功勞者。

『譯書』、ブレンターノ著『労働者問題』（大正八年九月二十三日岩波書店）、ヤントン・メンガン著『近世社會主義思想史』（大正十年一月八日我等社）等。著書は『クロポトキンの片影』（大正十年二月二十八日同人社書店）、『社會科學研究の自由（劇）』（青年學徒の訴ふ）（大正十四年一月二日改造社）、『思想と闘争』（大正十四年五月二十日改造社）、『邦譯マルクスレーニンゲルス文獻』（大原社會問題研究所）内藤越夫共編、昭和五年四月二十日同人社書店「アールヒューナ」、『オウエン・モリス』（昭和十二年六月五日岩波書店「大教育家文庫」）、『戦争と文化』（昭和十六年二月十日中央公論社）、『決戦下の社會科學』（高野岩三郎・權田保之助

・大内共衛合著・大原社會問題研究所編、昭和十九年四月二十日栗田書店）、

『救國民主聯盟の提唱』（昭和二十



年十月二十五日(鎌倉書房)、『社會主義主義のため』(昭和二十二年)

三月十日第一出版株式會社)等。

